

令和5年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会 会議録

日 時：令和5年6月6日（火）午前9時30分～午前11時45分

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第1会議室

出席者：審査委員 5名

【渡邊寛人、土屋裕子、永坂幸子、三枝寿也、角谷恵理子、杉浦英樹】

：事務局 4名

【杉浦智彦、堀田葉子、水村浩一郎、都築征希】

：市民活動センター 2名

【大野裕史、深谷政信】

傍聴者：なし

会議内容

1 あいさつ

委員長あいさつ

2 議題

(1) 令和4年度市民活動センター事業報告及び決算について

大野センター長より資料にもとづき説明

- ・市民活動センターの日常業務と独自業務について事業計画書の内容を説明。
- ・令和4年度の活動報告において、相談件数の目標128件に対して128件（100%）、マッチング件数の目標29件に対して59件（203%）を達成した。団体登録数については活動を行っておらず抹消した団体を除いても1増の277団体であった。
- ・コロナ禍ではあったが、サポプラまつりをあいくるにて開催し、600人を超える来場者があった。また、34団体の参加に加え、多くのボランティアが参加した。
- ・つなが輪へきなんにトヨタ自動車衣浦工場と碧南青年会議所が参加をした。サポプラを介さず、つなが輪への登録者間でLINEグループを活用した相談・マッチングの仕組みを新たに作り、3件の対応実績ができたが、コロナ禍で相談が激減していることに加え、各団体との連携が不十分であったため挫折し、検証し、現状

としてはサポプラが間に入って各団体からの相談とマッチングの対応を行っている。

- ・災害への備えを学ぶ会を継続して支援を行っている。昨年度は碧南工科高校版ファーストミッションボックス（FMB）を高校生と一緒に学び、作成し、実際に訓練を実施した（令和5年5月に修了証を交付し、中日新聞に取り上げられた）
- ・へきなん自転車散歩実行委員会を継続して支援を行っている。
〈令和4年度実績〉参加者138名（50チーム）、運営・ボランティア137名
- ・地域の商店街と実行委員会を組織する → コロナ禍のため中止とした

<質疑・応答等>

審査委員：事業計画書はわかりやすいが他の説明の資料（事業報告書）がわかりづらい。実際の審査にあたり、それぞれの活動の目標と実績、そして、その活動の効果がわかる資料作りをしてほしい。

説明者：わかりました。

審査委員：決算についても、現状の様式ではその年の内容（何に使ったのかが）わかりづらい様式となっている。

説明者：次年度においてはよりわかりやすい資料作成に努める。

審査委員：事務局は市民活動センターの活動についてちゃんと把握しているのか。ただ丸投げしているのではないか。自転車散歩の事業についても市側はその目的をわかっているのか。

事務局：決して丸投げをしているということはなく、日々の連絡に加え、2週間ごとに行われている運営ミーティングに担当が参加してサポプラが行っていることを確認している。その際に、地域協働課として行ってほしいことを伝え、逆にサポプラからの質問に対して答えるなど連携をとって事務を進めている。

審査委員：資料などについても碧南市が持っているノウハウを共有し、一緒にわかりやすい資料作成を行ってほしい。

(2) 令和4年度市民活動センター事業計画及び予算について
大野センター長より資料にもとづき説明

審査委員：今年度初めて FMB を知った。これまで行ってきたならば、今後どのように周知していくのか。目的と効果を考えたうえで事業を行ってほしい。

審査委員：FMBについては現状のままでいいと思う。急いで1，2年で周知できることではないが、ただし毎年続けることが大切。町内会の役員でも毎年交代があるが、1年で20人の人に伝われば10年続ければそれが200人になる。

(3) 碧南市市民活動センター指定管理者業務仕様書の見直しについて
事務局担当者より説明。

※今年度の公募に関わるため、市民活動センター担当2人は退席
第1回での協議をふまえて仕様書を作成する。

また、これまで事務局として市民活動センターと仕様書に沿った協議ができていなかったことについては今後、しっかり協議を行っていく。

(4) 指定管理者の公募及び今後の日程について
事務局担当者より説明

※今年度の公募に関わるため、市民活動センター担当2人は退席
今後のスケジュールと第3回の審査委員会の日時を確認した。

3 その他

<特になし>